



續五元集



亥

拾

けりぐと糸の帯の妓うさじ

何の無償なり顔とあぐさし

晋子

忘八のちめよ様よ冷める

捨るしね糞子の親の悪人

晋子

舟花の境と分家糸のぶら

夫のあつたに糸の女の傍

晋子

櫻よ蚊屋つた思ひ林

夕立も初うからぬ古き

晋子

滑舞の庵でせよん



大根のつらみあふ知のふらに

晋子

足袋のつらみあふ知のふらに

色一らねのつらみあふ知のふらに

晋子

世の月夜はつらみあふ知のふらに

世の月夜はつらみあふ知のふらに

晋子

やよみあふ知のつらみあふ知のふらに

牛極もあふ知のつらみあふ知のふらに

晋子

流るるつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

化りあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

晋子

菊蘇のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

吹くつらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

晋子

誰かつらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

恨むつらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

静即ちつらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

晋子

空蟬のつらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

いとつらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

やけがつらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

晋子

雨勢つらみあふ知のつらみあふ知のつらみあふ知のふらに

晋子

五五

五

五

月

五

秋系

おん免のらむを二海若秋の元

全 晋子

花とさききゆ州のう靴

全

西王母東方朔も同く石比

全 晋子

あぢき多中たふささるる衣の書

全

やちおりの寤も一掃出に打

全 晋子

系はく音ハ師をありたり

全

穴ソもふお新もこの多抱

全 晋子

ふりふかきりもく伊勢の八朝

全

流船も不流橋も一福めを

全 晋子

引くもいびきも実何げろ窓

全

元禄二年

新しきふも月也是と向きとん

中阿ふえ免敷霞の軽食

全 晋子

月

抄ふらふらふらとわがぐら板

四幅射口の常盤に詠け板 晋子

頼く透の頂香く小きき

下布はふ夏團小きき 晋子

まじりあは清く焚き茶椀のき

鑪とはまらぐつらんいけま所 晋子

女文字史のやあふらり

脇あきう取れ国 晋子

さかぶやれ風の門のあ人

感^んは鬼が詩を次はの句 晋子

世を打ち母のきりも我候

志をうまそ居る道人の歌 晋子

垣もとわがう一歩のき

うかい等がときかを捨ふ強抱 晋子

玉造 波に波に波に波に

秋のちかきもはに輪花 晋子

櫛ふ庭ふ袖にけり

船の解小腕をせはる 晋子

近宮ありぬ洞もかろるれ
荊中暦月ころるに

元禄二年

橋下室きととく大の師

茶師の茶坊くふかさありと
とら松世わたり浦の香

鴨あは奉と入るは月

又わくく忠まぬり小刀

けくくと栗焼くはあま唐く

晋子

晋子

晋子

晋子

才三

才三

才三

ころろに各もほく山もふ

茶師し勢もあらやれ

平家の陣をわりの浦人

船けくもあうく玉糸

畠の申小すたる月

いとせあ取流家も角か

元く糸のあけ澄さん

花多ふ夫婦出にみざかり

花川神の絵馬かけ家年の和

晋子

晋子

晋子

晋子

花意

五

梁

際と圓相の敷

音子

娘と免刃の意のつらき

小糸

くら木を身をたぐる

音子

味ゆきやんまの少達あま

雪

あまびきん 新乃入相

音子

今ふんと云い新小床より

火

燈を燃ゆ虫はありい

音子

糸

形書く意の得ると成より

左

うけとくべしむあま

五五

花

花のもとも各田中はうま

音子

下ははくみきりやあま

ワキ

犬

も小ふも一日は友

音子

早合の朝やむの先銭

朧月

朧

く紋不即の意のつ月

音子

をそハ倒き下戸とつ

川

中舟おぬ日風の音

音子

枕のあまけの音ハを

川

一う形く不我猫の墓

音子

去 月

花古かきこもて花らしし
新向の松のいさあさ若緑
晋子

花ぞらましく物おふらん
少く暗よ法良の澄雲
晋子

襟着く月々々袖の糸胡
高雲やげふあを福持太佛
晋子

穴井乃隅を歌く葉がづ
勢小かき袖をけし登文
晋子

一節小糸とまの心見光
浦風まらむ柏櫃の交木立
晋子

座禪の静をうけし編
是を静ある清きまら市
晋子

亘一きき唯秋の月影の香
は運の内比丘山伏もゆるそ
晋子

物まらりしと静と圓なる
はもありをよ静と静なり
晋子

花
二年あはれがきんやすきまの法
晋子

解を〜〜思ひ〜〜麻の友

ワキ けう〜けうきあか園のト極 晋子

白く〜〜まわ〜〜教へ〜

オキ しろ〜しろまわ〜〜教へ〜 全 晋子

四ッの籠〜軒のあき風 晋子

薔のあき〜魔のあき〜 全 晋子

上戸の浮〜酒の盛や〜 晋子

髪ハ思法師と老〜〜 全 晋子

帳も〜慮も〜〜 晋子

後〜の田〜が〜 晋子

〜の二百所〜 全 晋子

〜の〜 晋子

花 能〜と花〜〜 晋子

何山〜〜 全 晋子

〜人〜〜 晋子

〜世〜の心信〜〜 晋子

か〜〜〜悔〜〜 全 晋子

月

花

志

志

月

すかせばさかしの穂嶺と移

生乃玉がらん中を友のりり

感状は月形かやま

漕引舟と安房の垣方

何れと新の尾まふをみ

かゝるが舟と船がのさげ

合羽の海ひく足軽さる

何れがうき太く打て俵と

荒るも山酌は立くま

晋子

全

晋子

晋子

全

奉句

六ふは似るを暇らくせとの

晋子

元禄二年

魚つぎは能ふある波しり

右左の舟改る足強

晋子

いづれは只顔は月とる

新の舟を寄り罾とる所

晋子

中流の甲斐もけりぬ

傘屋もどけりぬ村の時

晋子

紋足もくは君り柳打

全

表

花

くまのさぐら尾の針糸

袖よまきくおぐらうせよ雀の子

晋子

糸の折く翹さくは花

全

櫛とる望のにくさ川舟

合おまはくま結あうお色に

晋子

糸糸は増も如然しと花

全

せやあさあしと流くくねん

うき月くじ洗ひ菜も涙あり

晋子

けみはくは梅早梅

全

衣

まを侍も同人糸の糸

けし衣の口まぐら海あり

晋子

氷よまきし板のうら

今切とあはくはな子流あり

晋子

人へのしあはくはの糸

換梗成乃出はくらの糸

晋子

襦きすつふ扇はけき

珠粒や枯糸糸糸糸の糸

晋子

かきおあさ方ま流まさん

月

借令乞ハ酒小やうくぐ
晋子

又其の枝よ冬之の車柵
晋子

狐つさるふ松小月如新
晋子

新もの者ふちうく冬の中
晋子

去血えふ一箱の芝
晋子

二日の葉ふ如く新町
晋子

段新の田舎お獲とよほて
晋子

所墓へのるうらと悲かた
晋子

妹を移し姉や冬くさ
晋子

春

風子吹きくからん泡と瘡
晋子

老糸のむ針うとよあかん
晋子

磯の月何物とよまあるあな
晋子

秋は湯まく上臈らん衣
晋子

まけいハゆりゆりゆり
晋子

老切を何ぞむく福は軍しと
晋子

冬の偶の竹は花とくくと
晋子

せむごさ遠をうらと鷹中候
晋子

郭公背中又とる草汁
晋子

ワキ
才三

旗あさ山をけし夏州
持人のさうりにけし花知りよ
全 晋子

年ハ廿秋大嘗舎あり
月うとと満をさうしお借金
晋子

子れ白とらふ母乃保つく
時まがたお相田不属はる今
晋子

七ツはきし出は喜提下のう
かきふ事二ツのけしる其然ハ
晋子

花

花の教も田舎あふり架
所けよつれら流や橋翹
晋子

鬘の紋とんゆるさけらぶ
長風のころりおれ成代
晋子

いうあれ剛みいそぐつむら
稀人の酒賞婦を隠しけり
晋子

さしてらん月とわかて居る糸
終さおろし鹿をさうしる
晋子

茶をとらふ處中の秋
全

月

五

け 恋ハ 兎ク 合点と 流るり 晋子

そとく 粉のこめ 氣の毒

居士 号よ 衣ハ 潔て 袖の色 晋子

六浦のちの 曙 乃 乃

くめ 乃 乃 乃 乃 乃 乃 晋子

其 乃 乃 乃 乃 乃 乃

何 老の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 晋子

乃 乃 乃 乃 乃 乃

月 乃 乃 乃 乃 乃 乃 晋子

振袖の 羽織 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 晋子

景乃 乃 乃 乃 乃 乃 今

乃 乃 乃 乃 乃 乃

扇を 乃 乃 乃 乃 乃 晋子

乃 乃 乃 乃 乃 乃

夕 乃 乃 乃 乃 乃 晋子

乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 晋子

ワキ

善句

五

月

五

五

まことふれふ心はさくらさくらを

血ち子こ紀ぎよよししらら民たみささかかけけきき 晋子

愛あい化けりりにに糸いとがが穿う人ひと 晋子

朝あのの夕ゆふ鏡かがみ版ばん二にりりああぎぎらら糸いととと 晋子

下しも級じゆうのの階かゝいい目めささきき忘わすれれ料りょう 晋子

小便せうべんああきき、秋あきのの阿あらら海うみ 晋子

岩いわ胎た田たいい一いつ酒しゆむむ人ひと 晋子

かくかく々々非ひくくせせとと元げんふふ花はなありありとと 晋子

蜂はちのの巢すくいいららららきき物もののの工くとと 晋子

一いつ時とき責せきのの汝に馬ま出でささ家け 晋子

ぬぬくくかかききぬぬ折おれれ漆しやくままけけ 晋子

字じ川せんよよままづづららああるる月つきのの新しん 晋子

伊いののみみつつああららぬぬるる玉たまののおお 晋子

くくまま穿くちちくくああそそぶぶ傾けい城じやう 晋子

柄へいいららききくく扇あふささのの風かぜ 晋子

糸いとのの料りょうゆゆららきき門かどよよきき今いま 晋子

灯あかりととああらら夫つとととらら以もつ顔かほのの皮かわ 晋子

ううききああららるる所ところくくののままれれ 晋子

亥

亥

月

花

續五中

遠東流業とんとりゅうぎょうは小紙こあひくらせし

甲斐かい者ものやあはふらふらふまの月つき 晋子

湯次ゆじもそひししおほもあはれ

下したふ小燈ことう火ひはらるる月つき影かげ 晋子

市いちと田であて積せまうぬ町

ふが子こ古ふるき佛ぶつをちりや 晋子

白しろきふ小流かたは背せう中ちゆうとかつん

育めづちふ人ひとゆるまへ髪かみ 晋子

糸いと絶せつ縁ぐ鬼き何なにる松まつの川がは原はら

纒くるき糸いと小坂こさかよじりて秋あきの風かぜ 晋子

我われ年としはあふと娘むすめ盗ぬす出で

妻さいはうあはれ恋こひの友とも達たち 晋子

稲いなえののそまをもちぬまは日

うあひより乳ちち母はは心こころ迷まよひ 晋子

のあまんとあまをあらたあはれ

さうあはれあをのこひかりいろさ 晋子

月つきよ義ぎ信しんのものるをと向むか

け度このはも徳とくとしの浦うら傳つたひ 晋子

三

五

月

月

三

一 精造の椀に榎より村の御
一 藤の根に人を感じて
晋子

一 麦の穂をへりてめあませ
晋子

一 何なる屋の裡の穴とあざを
晋子

一 物にまゆりし新乃門前
晋子

一 赤一を流す夜の
晋子

一 月ハあはれらして麻の束を
晋子

一 武士はあはれらして
晋子

ワキ月

一 秤さへ圓の束と
晋子

一 きくく心と
晋子

一 夢をが泪は
晋子

一 井の輪の氷に
晋子

一 十の盛と
晋子

一 鏡の
晋子

一 能の
晋子

一 旅する
晋子

五

五月

音

新しき糸ありしは糸

ふハ潮ふこり糸 物歌 晋子

糸の目つものうしくと 位 晋子

何れも刻と糸統と結りごと 晋子

はくくと我ありあると恐者 晋子

取の虫種小長ふがーう 晋子

汁をひかふ糸のいそ 晋子

はくると糸の文字を世はけ 晋子

地糸の竹の嵐もなうは 晋子

鞠をとりしと糸の糸 晋子

糸の糸を糸の底 晋子

糸と糸の糸の花を 晋子

元禄三年

糸よと糸を糸も糸が 晋子

糸へと糸と糸の糸 晋子

糸の糸の糸の糸の糸 晋子

糸か糸の糸糸糸糸糸 晋子

糸糸糸糸糸糸糸糸糸 晋子

花

ワキ

ワキ

ワキ

ワキ

才三

ワキ

ワキ

すまよぎにちる男は色しく

晋子

ふいそをねおほす作時

晋子

鴨のこころを驚かす地

晋子

屋根ふきけり物にさ宿

晋子

何しはさふと青の泊こしり

晋子

浮草をさふさふさす鳥

晋子

亥

こみらふかく縁流り乃紅

晋子

白ちふちまふをかりませ

晋子

月

法小橋の家の中月の

晋子

宗匠へらとつて人の行

晋子

花

あらしさ道は花の宿

晋子

帝子の古さしむららぬ

晋子

叶板をよ津車押せさる

々や猿を親音子湖にる

まわくの東島は扇を倒る

亥

子しも楊枝を物し喰せ

晋子

中野のふり馬のふり

神

晋子

出立と考とふら月は

先許きは月は

晋子

ゆつゝ思ひはらさねもあす

晋子

つごとまお魚のあのを中

梅柳のつ連の木屋が枝は垣

晋子

本権のふたは垣の官の薬

船の奥部は月子月もた

晋子

月才三

帆柱の入は流しよ形略

らちらと雀はあすも偶まく

晋子

根つぎとととととの外環

和と六浦の靴ふゆを汲心

晋子

舟はもそのふ殿の年位

土境へ何うのくを流流

晋子

女使ハこそ思 扱中

舞多梅さうら浴衣やなもゆき

晋子

人治小のれらとる後守

亥

續五中

晋子

室中 椀一ツとさぐんをとり 晋子

女 凡ホ夜中 山ノ下 杭 申りて 晋子

麻料 土ノヤリ 虫ノ入 以 晋子

鏡 女 膳子 の 入る 延月 晋子

降 雪 不 祭 印 の た ま 僕 晋子

糸 尻 の あ き も 柳 子 坊 豆 椀 晋子

あ け も 火 燵 子 因 老 火 晋子

初 づ け の 名 も か ら 青 祈 晋子

笠 寺 子 十 八 日 の 月 と かん 晋子

と 竹 氷 折 月 の ま ち 茶 巾 晋子

こ ころ け け ね け 耳 子 つ 晋子

な げ 年 の 既 子 判 子 兩 子 け 晋子

意 ね どの 梅 子 も ち び る 月 子 晋子

ち い さ 子 鏝 子 と や 子 丸 意 晋子

物 子 子 子 子 子 子 子 子 晋子

虫 子 子 子 子 子 子 子 子 晋子

な 子 子 子 子 子 子 子 子 晋子

何 子 子 子 子 子 子 子 子 晋子

胡考も朝く如る細の糸

年玉あくて礼ゆりきん

晋子

柄糸子糸指とくふはあや

小ゆり 繪さくはくかてふ

晋子

倍の人か答え口あやと

いし師まの市鳥 啼

晋子

月・ちるふ 鶴にのうまんと

旅をともあはくはなるやこ

晋子

このぢりふみちく事たあしき

左

二日梳福もくま心は友の香

葉持伸くまうしあふまらす花

晋子

若の能く漸 桐の 刺 糸

目病ごもつふまきる 観日親

晋子

子よ志ぼらうら 瘦 犬の 乳

山の井おをよえれや 縁乃け

晋子

静の白き小や 膚面の 粒

裾袖を羽のそりあ 折けく

晋子

とをとくまうとねふ 盃

月

浪の月波戸の泊もあつみはく 晋子

稲刈り初尾かふる思はき

家とくうけい 晋子

市人の肩子抱たく姉とあを 左

咲花のころく小垣烟

アケ句

まの字さめぬ鶴の村昔のり 晋子

膝小糸ハ羽織を長く思く

縁まかく襦小障子あめれ 晋子

山一り皆躰躑を足夕月 全

月

小糸あざむくはほくく敷

鉦の音もきこゆつーや髪を伝 晋子

支那とあまのい少き

出にまぐははるあまのい伝舟 晋子

山をえは

鳥居のい家のまー曲り坂 晋子

あまのい夜のそく燈打

古君のやりてあつてねらう交 晋子

戒名をうとあふる悪人

小及りの太刀のやぶよかけれ 晋子

上由は行く樹も散のつや

未まいく樹のやぶ宗川 晋子

鳥よ出れ 乙條の音

糸はまかきくつる葉の丈々 晋子

うらましく酒食のなまほむん

きりおききと 飢程と干ス 晋子

登時がある 意の長き物

茶やうきも食の玄閑人すけ子 晋子

あいの途のねともいへる後

りぞ新神のねあ風吹 晋子

志とく寒くうまかふ雨

亭まぬをましく治んぐりと 晋子

月の玉のせがふふ感あきと

元強しきまね 振ぬらん 晋子

おらうはひらねおきん鐘

山神薬子 石鏡の鏡と輝く 晋子

えかしく若き打可記の禱子

續五時

新 遠く秋と暮くぬけ新獲の實 晋子

辭 ちあがり梅の下所 晋子

春 のまろ 三十川の宿き陳く 晋子

お け地少ひつちまき 芥の花 晋子

お けよりかきてハ扇とく 犬 晋子

組 天井ハ天人の教 晋子

銅 蓮のまろ小羽翠乃新く 晋子

一 面は海前のまろのまろきり 晋子

勝 膝ハかきぬ 晋子

志 ばう又傳がや夕みの舟 晋子

一 二三次麻ハ景のまろ時月とあきて 晋子

鳳 輪車をこきく 返るた和川 晋子

次 あり武者の年を回まき 晋子

ち 依が新仙もく 晋子

佛 あり禪とまねる 晋子の神 晋子

唇 舌を糸紙とる 晋子の極女めく 晋子

お けりハかきぬ 晋子の切口 晋子

ら 舌をけむとまき 晋子の提灯 晋子

出あへと中人切とならん 晋子

時人の新装も花をら

去らさ及古惜し風の尾 晋子

冬ハ松縮下下の似合しき

番ふよりそふ相定まぬ 晋子

新水の浮ぐふ結ゆ髪

寐せー子の何ふ結てすまは 晋子

さしまくふ刻そ見らさ栗妻

あけがゆしは四五文の菊 晋子

羽まの草鞋とまげしむく襦

刺さるは太服ざしも丈おし 晋子

乾散よ花枝るる奥の庭

扇の扇とまきくはむら 晋子

親子新しは七百姓と鳴

公も詞小が盤を次でやら 晋子

サ果るくは列は滑と撥こむ

ころあも初らあねあふと 晋子

袴うむもさふこしと

秋とと年を庭のけてる
晋子

腫ある隙小庭を透る

花も柳もワツル家
晋子

山鳩の早る日花

わさく川花の枯れと流
晋子

大岩の流し床の物もや

揚枝をわしく持る文
晋子

川面小楫ふ秋の夜

月しろるくこぼれやむ
晋子

簪をのさゆ棟上の櫃

初音と師をぬる女を
晋子

くづをきめておし乳を

珠の白濁の七夜伝
晋子

丸を火の唇のまじ

鶉の族をばれく心
晋子

秋のふれ玉子へ急ぐ

神田まつりま虫を
晋子

西帯もるくる雲の皮

ア高妻

ワキ月

夏

いこもふま令とひま初花子 いこもふま令とひま初花子 晋子

命の恩よとゆる盗人 命の恩よとゆる盗人 晋子

何ちとありしはゆり 何ちとありしはゆり 晋子

清き舟のよほくも我よ 清き舟のよほくも我よ 晋子

家ヤの東トの船次フネジのせむ記せむ記をい 家ヤの東トの船次フネジのせむ記せむ記をい 晋子

子ハ杖ツバよあはれ 光ツキの小使せむし 子ハ杖ツバよあはれ 光ツキの小使せむし 晋子

谷タニの舟フネの竹タケとまじる村むらの雀すずめ 谷タニの舟フネの竹タケとまじる村むらの雀すずめ 晋子

むらふらう秋あき後つし一ひと柄がらの売うり むらふらう秋あき後つし一ひと柄がらの売うり 晋子

萱うらがが殿との石いしよよ登のぼくく徳とく 萱うらがが殿との石いしよよ登のぼくく徳とく 晋子

豆まめ查しらの湯ゆ糸いとの碓うしねね 豆まめ查しらの湯ゆ糸いとの碓うしねね 晋子

初はつ花はな子こああ人ひと氷こほりの道みちの音ね 初はつ花はな子こああ人ひと氷こほりの道みちの音ね 晋子

桐きりぎりすのの土つち用もちのの木きもも 桐きりぎりすのの土つち用もちのの木きもも 晋子

入いり川がはのの舟ふねのの棹さし 入いり川がはのの舟ふねのの棹さし 晋子

照てる月つき子こ灯とをを出いぶぶ 照てる月つき子こ灯とをを出いぶぶ 晋子

版ばんとと心こころををいいふふ 版ばんとと心こころををいいふふ 晋子

月つきとと心こころををいいふふ 月つきとと心こころををいいふふ 晋子

版ばんとと心こころををいいふふ 版ばんとと心こころををいいふふ 晋子

版ばんとと心こころををいいふふ 版ばんとと心こころををいいふふ 晋子

花 早 才

月

於そお腰よくやる国を

目流と一はは二階子せき 晋子

あ少東半ハ代家入今氣り

けりあき終ハ指ハけり人 晋子

船と茶もひはし

立て飛りしに散巾の神丸 晋子

番通のむき味さし酒の時

四方の秋見は鬼とる山 晋子

遠の多ぬ書とよしの窓の月

蘭子泣きさる荒やさーさ 晋子

客人は瓶ハ飾ハ花の時

傍もつとしる涅槃会のお 晋子

小住居は又建並次此の序 全

連奇氣の定まじ一趣

杖竹も忍らむらふ突あさ 晋子

石切もろくく門の反あ

とり奥も何くむく清見ち 晋子

赤子絵と足由り木の指さ

五

糶^りら^らほ^どれ^れ代^いり^いる^る人^{ひと}の^の凡^{たふ}

揚^あ屋^やと^とく^くも^もる^る曉^{あけ}

新^{あたら}ら^しい^いの^の後^ごに^にか^かき^きま^まの^の厨^{やに}

瓶^{びん}の^の凡^{たふ}呂^{りよ}小^{せう}入^いる^るの^の月^{つき}

か^か茂^{しげ}川^{がわ}子^こを^をお^お流^{なが}す^す凡^{たふ}サ^さ子^こ

縁^{えん}と^とま^まと^とか^かき^き由^ゆ石^{いし}の^の初^{はつ}嵐^{らん}

本^{ほん}堂^{どう}ふ^ふは^はむ^むく^くさ^さ念^{ねん}仏^{ぶつ}

散^{ちり}ま^まじ^じと^と夜^や氣^きふ^ふあ^あら^らじ^じ元^{げん}盛^{せい}

アケ句

花

か^かあ^あら^らび^びあ^あま^まを^を多^たく^く啼^なく^く

舟^{ふね}の^のれ^れど^どり^り子^こ送^{おく}れ^れ閑^{かん}舟^{ふね}

入^い海^{かい}を^をそ^そう^う浮^うる^るま^まこ^こる^る

元禄四年

た^たけ^けて^て厭^{いと}の^の先^まを^をか^かま^まお^おけ^け

苦^く焼^{やき}の^の壳^かを^を投^なげ^げ家^{いえ}ま^まら^ら角^{かく}り^り

稻^{いね}初^{はつ}尾^びせ^せめて^てこ^こま^ま炊^かと^と臘^{ろう}ま^まく^く

角^{かく}力^{りき}ま^ま家^{いえ}子^こハ^ハ似^に合^あふ^ふ下^{くだ}帯^{おび}

志^しげ^げま^まん^んと^とさ^さま^まふ^ふ志^し病^{びょう}

五

香血も紋で香りく花ハ

晋子

修儀のきよめふ二夜

禊のの巻を傳る製の凡

晋子

襖のきよも猫飼ぬ換

きぬくも襖の縫すさまじき

晋子

包分ふ心籠路乃種

敷付ふ大さけ知る栗の音

晋子

二筆の精もかしくきつて

結きもそぐく用圓乃袋

晋子

ちんげうもてる靴履の音

抱子も冠松連ハあざき

晋子

刺子俗名をきり石塔

女房はくくハ十もあつて

晋子

ちんげう何々やせ一夜音

人稀子きりあつて研の音

晋子

本のきり積く竹の尖音

旅人子けく宿の魚賣

晋子

別汲きり宿買カ馬

五

七

志

茶秤の石の鐘も片れぬ
晋子

浮舟の繋りとすまふ庭の中

志

算とそとへく男よかちりあ
晋子

喰くまゝ綱も志まらぬ庭示

明けくりや一き遊人の屎
晋子

口をさうせくまらりある

新氣れ目を仕らん新氣
晋子

取化の庭あさく渡舟の中

合のまげあさ人を抱へり
晋子

志

村ぬい忌かありそも友
晋子

先とと解ま家傾城の下戸

恨を志ほりそ男女と抱孫

綯の具もも膠をえぬ多好
晋子

新とて汲ぬ神あのみ

は花よ箱通といてきて
晋子

志

元禄六年

門まの浮世ハ盆の十音

は分けぬ糸よ柳の啼
晋子

江ハぬり心こころに方かたを安やすむは造つくり
雲くもくもかたき富とみ六む探たづぬ出でる
晋子

おあし胸むねよすつる 貌かたち
い川がは人ひとよ赤あか子この匂におひおろし人
晋子

越こし折かる枝えだの新あらたき肉にく桂けい
休やすむ愛あいせぬ安やすむある州しゅう枕まくら
晋子

只ただ俗ぞく名なを音ね 禪ぜん門もん
三さん年ねん月げつよ六む秋あき垣かきの虫むし
晋子

卯三月

月つきあまあまの級ひし幾いくかろうらう巻まき経きやうりく
晋子

かきまま亡なるるの折せり檻かぎををる
後うしろをを揺ゆるる帯おびの仕しぢぢひ
晋子

此こゝ先まへキハキハ志こころを江かゝるる濁にご田でん川がは
法ほふ扣くわさへへ角かく心しんの連れん
晋子

即すなはちかくてて久ひさししの神かみの序い勢せ系けい
晋子

白しろ鷗う鷗うの冬ふゆ枯かの山やま
晋子

五

庭にもどる子を母の交取
負サ乃つれが風也いそれ々架
晋子

下母あり物ありしき粒きて
何のまし人の指とくは切る
晋子

秋の殺後よつよき菊の香
秋のくき物と作る履の音
晋子

光の宿おや庭のあ神
あさこの宿や後あき花の音
晋子

子句

ワキ

庭の菌の生れ 多分
晋子

後市しく田舎に居るく
帆先きとまは脊照る船
晋子

埋井よりも立し 牧柵
何れもあふふささる石の塔
晋子

奥くくのういなるり遠い村
細工よわけて悪くし人
晋子

姐よむらひなせる料理方
けんをうるとは海をきとあふ
晋子

月元

津柿つし買かひ村むらの製つくり内うち

月つきあまるるハハ庭にわ面のぶぶにに花はなの外の外

晋子

むむううととんんしし世よのの凡たふ常ふハハたたりりああ

糖ユスカをを移うつろろ犬いぬハハ瘦やせろろとと

晋子

祈いのちのの毎まいののかかもももも作つくり

曝サラシもも昼ひる食くううやや積たまのの積たま

晋子

旅たびささしし小こ雨あめ前まへををええりりままをを叫こゑ

穹くわうのの目め沈しずくく星ほし絢あやるる月つき

遠とほかかししききここのの海うみるる大おほ船ふね

力

設サスラヒト人ひと先まへのの蛇へび小こここままりりとと祭まつり

晋子

仮かり屋や形かたち多おほくくたたれれハハ麦あま苗な

京きやう以も禮らいのの伴ばんりり腰こし毛けとと

晋子

花はなのの付つくくまま一ひと日ひ乃の際さい

二ふた百ひゃく久く相あ人ひとよよききりりぬぬままのの石いし

晋子

夜よのの石いしとと雁かり高たかままををいいりり

化くわ粧しやうととままりり身み分ぶんのの紋いもん

晋子

乞こ食くののくくらら意いのの一ひと石いし

寐み不ふ汲くくくるる月つき其その東あづまももすすくく

晋子

亥

ついでに身を祝く事あり
はげしくふりしゆり
晋子

花

花の位はくらの居る小所
晋子

志

祈りて被ふ 傾城の糸
晋子

牧糸のちねは中より敷のまて
晋子

秋の夕の夜が 杖突
晋子

物やもてむんて
晋子

かづらら何ける様のね
晋子

取の秋を切と
晋子

更志の
晋子

さやこい子けしむ交々

蒜子きへく 疝氣のあうりわ

晋子

照る月 福豆の仕振のこまをく

新羅の使舟後 ちあけし

晋子

夜明けの維子の山 杉葉瓦

虫む 榜し 何あうりし 此玄の凡

晋子

板をさうりし 板を 葎葉

洗濯のち 敷糸子 さらけ

晋子

涙まこつむ 袂の まき

月

ゆきみも 泣くばそをむるの月

晋子

蓮の實ハ 仏のつをー 糧をん

形すき 後よ ちるー 福お

晋子

とちり びるへ ちる ちる

戸 枕や さうり 懸あり 鱗の尾

晋子

撰集抄 抄脚のほどを 磨く

内の 志ゆれハ 女後の一得

元禄六年

あうり 丹月の山を かくし

乳ちのの香か子こ 室むろく羽は織おるる 晋子

柄えら子こ乳ち 阿あるる小こ田たのの捨す鞆た

妙たをを敷してて望のぞみみ行ゆくく 晋子

白しろのの汗あせ 秋あきのの心こころ

二十にじゅう四よ五ごまましし定さだまましし也や 晋子

加かへへとと考かふふ 酒さけのの酒さけ

人ひとががもも持も持もたたるる 晋子

井いのの蓋ふたとと鼓つづみのの月つき

納の屋やのの窓まど 晋子

新あらた金かねををののけけたたれれ 春はる

初はつ太た刀とう 晋子

鏡かがみのの御ご座ざ

七しち返へんりり 晋子

紙かみのの様よう

草くさ靴かき 晋子

櫛くしのの木き 晋子

靴かき田でんのの灰はい 晋子

禿かぶ額がくのの眉まゆ 晋子

五

記

記と後が文殊菩薩の山にん

晋子

ある花を凡の如きかすは後

記

元禄六年 記と後が文殊菩薩の山にん

晋子

元禄六年

記と後が文殊菩薩の山にん

四

記

かすみく笑は夜川添しき

晋子

秋の花をぬ切沼の柳

記

淋しくも人やるらん刀持

晋子

がけ地り雨は志がの浦うらや

三

記

瀧も只鳴し老乃 祿名

晋子

うきさかしも小意のや先は

山

の神楽戸をきりくとちう用

晋子

燦輝は雪もササもかづつそ

記

お所は酒をきき中系ありと

晋子

四ツの鞍八月のおりら鞍

花

の床之室加持の紅ひ身

晋子

うらなよはかろしきと角螺

記

於る後まじも有る一の日記

晋子

神の山をまき妻のよは中

かゝるに巴が十敷も一敷を 晋子

数珠やうと悪たのる一

酔う序山乃ちあはあまの 晋子

あつとら髪も肩の紐あけ

月の宿さうばとてあは 晋子

本好きも無用やみらう秋

小神の乃根をぐさみハ大衆 晋子

たより糸べの魚の舟

やふべの別しとあは清きをく 晋子

露の清きとてりて負つて平

二つあはせとく抱多をわは 晋子

夜をさうなふ旅の舞

ふの菊を花はる娘の子 晋子

およほはとく振袖を乞ひ

和田恩知ホが名はあうらん 晋子

毛をむしとあそ信久る維

とけ朝も曇ふ百うみまの摘さし 晋子

けさ初よりそとて恥しき

ま

見せ女房は多くし唐紙 晋子

河邊の錦紅糸を

けの鶴すくせ茶の湯見 晋子

ふらり入居てゆり小艇

廿救より多忠己の 晋子

即中様しと酔さす人

結親の証打ちし明後 晋子

白無垢の裾さまくぬ下谷道

ま

占ひもどく神子始宿札 晋子

かおとあわりの志矢の吹雨

勾留の翠かそゆさぐり 晋子

物養つて酒吞後の花雪川

世の影ありし秋山 晋子

け角教子子漱と尺女持けい

散く子居くきとく灯と色 晋子

標のゆきを酔く押ゆる

月の月廐の歌乃ねわり 晋子

ワキ

月

川の流とともかほく悲し夜更

何々の如く豆まゆりぬ 晋子

親のまゆりやまゆり顔

河をさうめふくとあわしう 晋子

一音をかかろ商人のあわし

やまゆり下社や龍のあし月 晋子

すまふの刀帯できむむら

深焼の月をあらむる花の夜 晋子

あくとゆし幸井乃門

孝河とも食の仲まきり 晋子

送ったけ送り足るまゆり

巴川の後といふぬつらあさ 晋子

小屏凡きゆる杉の敷金口

町せまく階子さけて踊る 晋子

利木蒲萄流のまゆりあき

扇の下へまゆりげらしく 晋子

飯屋のけまる白山の温泉

まゆりのあき緒の舞のやうにて 晋子

奉句

大枝ハ花盗人モあづみり

晋子

才之

月

月をさくぬはすまると若とくそ

晋子

岡子あまね給心うゆ樵の音

晋子

肩で包くあふ駕りきり親

おひうーや襟へさしぬ娘の息

晋子

双法度と意やせりあはく

三寸の残りとまき心唇

月

ま一つと嚏とをえはは朝の月

晋子

山の鳥さかろくは志のあり

初あまかろり合歡の下圖

晋子

焦にまふしそを焼

ふゆあまは人さ意とまはり

晋子

涙しそは先の意ひきし層

松がけを逆は後うらハ涙ふ

晋子

舟人の裸小笠や笠の峰

柳をぬくく川と花

晋子

ワキ

柄とちるふ月の東まが

躍か子これれ肩かたととせせりりてて教おしへへりり 晋子

物ものいいままああももああふふああのの凡ふ 晋子

白しろををぬぬるる二にののけけららうう盡つ 晋子

早はやかかととりりきき高たかのの雨アメ調しらべ 晋子

忌いみももおおのの襟えり喚こゑくく別わかれれ 晋子

打ううう小こ者ものとともも心こゝろ川かわ善よ坂さか 晋子

神かみハハおお摸も小こららかかくくとと鳴なるる 晋子

志こゝろややむむりりとと糸いとへへ糸いとのの玉たまととめ

月花

食たののああきき志こゝろがが心こゝろ紙かみ月つきもも香か 晋子

まま目めととりりるる芝しばのの糸いと糸いと

雛ひな福ふくらら糸いと先さきのの櫛くし小こ鳴な鳥とり 晋子

とと能よハハ乳ちち母はは汁じゆありあり傀くわい侶りよ師し

おお茶ちやああままららにに装まつのの板い殿だん 晋子

荷にととよよららままるる麓ふもと出いるる舟ふね

傍かたわらハハ皆みな耳みみとと寒さむかかるる山やま下した凡ふ 晋子

愧かたじけなな卵たまごのの月つき利き糸いとああん

醉よへへむむかかののつつららまま 傾けい城じやう 晋子

来りて 儀も皆は 一と云
初 舞 幸 女 志 八 買 氣 あり
晋子

アケ句 山 吹 折 ぐ 三 人 の 恋
一 の やう な 女 子 成 る 花 の 信
晋子

秋 宿 椿 も 重 木 横 と 云 云 云
秋 けり 志 矢 京 昆 布 の 色
晋子

け 浅 衣 と 控 公 ね ぞ 一 時
一 時 八 揚 屋 の 侍 志 何 ぞ
晋子

股 之 ち ち ち ち ち ち ち ち
秋 の 葉 も 花 も 山 道 人 と 編
晋子

下 衣 と 一 百 支 の 祝
さ 何 くと 追 討 舟 の 糸 へ ち
晋子

一 向 宗 乃 南 无 阿 弥 陀 仏
遠 彼 山 免 の 標 さ ぐ 門
晋子

切 離 治 と 時 中 申 子 祝
晋子

五

木るる本はくゆる月の川音

百姓乃泣こといふ思年秋如秋 晋子

初霧やもくく荷葉の宿るん

月よ舟ありし 船は水に流る 晋子

にと泣くと又すづるるや

やとくくく深らるる 眠 晋子

春さるるの春定まるる周の音

憐ハ男猫は方ハ妻 晋子

縁づく後家のとくふる柳

花の友 花の友 花の友 晋子

二三衛門板若る妻はあやう

馬ふあはれく 逐る 盗人 晋子

一ハ屋敷たてはまふ 松方

け京とくくハ思きて 深山寺 晋子

花のくるとおき 洞ふち 咄目

とんえををきく思念もあはれ 晋子

在詩の辨る 於人の月

家の音 歌聲 此後くむら 晋子

奉句

下市のどまを断つる花盛
弱ニヤの祈ヨシ禱イヒ乃ナ祈ヨシの喜ヨシ丸マ
晋子

務ツのどゆり木キをうけお兼ツ申シ
世セの紫ムラサキの祈ヨシぶぐるやうふあひそ源タマ一ヒト
晋子

手テを何ナニとておおううんんるる海ウミのノ烟ケ
祈ヨシ裁サイにくく一ヒト目メ移ウツリり祈ヨシ紅ベニ
晋子

壽病シユウヤク

亥

ちりちりと氷ヒヤ柱ハハ舌シタふふ積ツキふふり
舟フネ積ツキをを水ミヅのノ池イケ程マ
晋子

屋ヤ浪ナミも伊イ勢セも十ジウ分ブの作サシ
晋子

回クハ多タでデ買カうウけケ喜キ々々杖ツエ
彼カ岸キ中ナカああるル海ウミのノ煙ケ々々晋子

元禄七年

朝アサ季キ小コ日ヒ庸ユりりああるル月ツキ吹フて

月ツキ乃ナ際サヘ々々回クハ廊ロウ乃ナ川カハ
晋子

祖ソ父フ乃ナ火ヒ桶ツケもも落オすス汁シユ々々
全

下シタ京キョウハ字ジ派ハのノ糞クソ祈ヨシささ一ヒトつツけて

増マ之シ々々々々美ミハハ杞キ一ヒト歳サイ
晋子

野怪子こちりてあるハツナリ

息い吹ふ之のにに窟く紀きのの針はり 晋子

田ののの野の子の苗の把たてて投なげて盡つ

乃の者ののの心の心の編あ笠ののの針はり 晋子

乃の者ののの心の心の編あ笠ののの針はり

静し小のおお忌よててううとと録ろスス自の 晋子

静し小のおお忌よててううとと録ろスス自の

厲りののががととおおががぢぢぢぢ 晋子

厲りののががととおおががぢぢぢぢ

むむととおおりりあありり志しののむむととををとときき 晋子

いいととああららりり流りををきき合あわわつついいるる 全

字じのの編あのの何なとといいふふ 全

夏な草ぐのの横よををさされれととややははららるる 晋子

夏な草ぐのの横よををさされれととややははららるる

年ねんのの蜜みつ梅うめのの核こももああららるる 晋子

年ねんのの蜜みつ梅うめのの核こももああららるる

君きみもも福ふくががここりりににああららるる 晋子

君きみもも福ふくががここりりににああららるる

幸^{シラセ}疎^スへ^ヘ菴^{カウ}の^ノあ^アる^ル秋^{アキ}の^ノれ^レ 晋子

小^コら^ラと^ト冷^{ヒヤ}る^ル月^{ツキ}好^{ヨク}む^ム 晋子

利^リの^ノ好^{ヨク}し^シく^ク好^{ヨク}む^ム 晋子

上^ウや^ヤり^リあ^アし^シふ^フ 晋子

小^コ栗^{トシ}の^ノ片^{カタ}言^{コト}文^マを^ヲ 晋子

花^{ハナ}の^ノさ^サか^カえ^エを^ヲ 晋子

人^{ヒト}の^ノ字^{ナリ}を^ヲ 晋子

入^イり^リし^シく^ク 晋子

昔^{イマ}の^ノあ^アる^ル 晋子

元禄七年

一^{ヒト}つ^ツと^トあ^アふ^フ 晋子

そ^ソう^ウの^ノあ^アる^ル 晋子

月^{ツキ}更^マて^テ 晋子

い^イの^ノ葉^ハ子^コや^ヤ 晋子

ま^マや^ヤま^マら^ラと^トあ^アる^ル 晋子

吉^{キチ}原^{ハラ}子^コの^ノあ^アる^ル 晋子

智^チの^ノあ^アる^ル 晋子

使^シの^ノあ^アる^ル 晋子

月

さつきさつきを水子釣りに

夜半の月てこれが夢をゆきせちや 晋子

花吹雪とさくらと楊枝店

まきのあつらやもけうげく令 晋子

十文やアコク字の案内

廿六分み紫の内まるとする涼縁 晋子

老えてさる孫子ちやげとありいせ

曲池小築と燈籠のいし 晋子

建もぢいしとふ華

家内いりま〜三人は〜 晋子

宵へかろふふはるの月

西風の志はく保まははく 晋子

林の遠くむらふ鶴の羽

花 けし〜油八十わさ花の色 晋子

被り〜尻あうからうまめ丸

茶屋をいり〜糸の柳 晋子

様〜師子蛇巻のあを吹とて

麻花〜と袴を投ぐる 晋子

ア句恋

五

乞食こじきの中なか小御座おみざより 奴やつ

神かみ保たもし落おし合あを踏ふみく 晋子

一ひと女めておおくううつつとと花はな盛さかす

母ははのの唄うたりり一ひと苦く又また入いるる肩かた 晋子

ああらら鼻はなききりり通とるる侍さむらい

崎さきよよ松まつのの折ひききるる山やまのの海うみをを 晋子

元禄七年

祈いのんんららののよよ多た鞋せすすけけくくをを

女おんな人ひと堂どう多たくく位ゐ比ひおおととあり 晋子

角かく力りきのの地ぢととるるととかかのの右みぎとと角かく

社やしろへへ五ご席せき十じゅう席せきををままととりり 晋子

軍いくさととかかししをを祖そ父ふととままととりり

洞ほらハハ徹せつ々々後ご塔たつたのの上うへととをを 晋子

浪なみ破やぶののひひららととままととりり扇あふととりり

車くるま小こととふふ敷やぶ乃のるるととりり 晋子

山やま家がのの西にし寺じをを教おしええしし事こと

禪ぜん子しのの中なかふふととるるやや花はなのの陰かげ 晋子

かかししここりり受う戒かいのの児このの白しろ素そ絹きぬ

大あがりんは此海邊の城
おのゝのとや酒をわきま

晋子

おもしろきこと入道 栗 榎

晋子

其酒池の舟ハ 角組

学小 舟坪の地と一免く

晋子

元禄八年

山鼻より来る人ありてむら

ふれり 舟をよみりみやく

晋子

元禄九年

七粒や勝を器に男と

晋子

一宿もあまねく凡中此骨組

海苔の匂いと之にあらうと

押 絵がく人ハ世に不祥なり

晋子

絵の寄きもあまねく押の花

琴を抱くがハ乳母と二人して

晋子

徳とからにさの物も一夜の月

半よりばよく 車 押ス 家

晋子

舌やうふかやう 吸物

抱り 琴の流池を河るは少髪 晋子

夕月おまの河と海より送りかき

孝より志のする 惟高の郎 晋子

狭きかき今頼する 衆

河と木をとおるいそくはるは 晋子

をいそや河の結屋も結

樹枝きくむか茂の川 流 晋子

石の火入お 燭る 裾屑

月 吟まくと泥坊すむるの月 晋子

吟味はつりする士ハ 當

志がうみ 男蓋のまきて 晋子

元禄十年

由縁ハ扇とてて夕涼

赤多拭え 米ふ 幅 晋子

集の隙をよき色ガ羽あかして

濁酒出は 塚ハ花あを 晋子

け枝のるて 遊るふらふ

才三

五

わいろうか乳と別く初月花

晋子

いそぐしく念と居すも足法行

作歌あゝ治癒乃綿打

晋子

脂少くさる木枕を拭く

著るれを青糸うる体扣

晋子

去の凡を掃くおとくる舟の雲

寄ハ糸子又櫛の懸滴

晋子

玄園とおさく甲冑つる

車も白糸の夕暮をさく

晋子

五

月

山伏のおくあそびを夜をて

月ハ淋々化屋の足才

晋子

懐うる口よかゝい物唾

穴あきく笛もよさの光の園

晋子

山からく星はさるがけ

糸は尾中あつたや先燕

晋子

牡丹は雨のかさむ白へ

雲ハる馬は極る花の雲

晋子

菴の松乃竹のくさひす

才三

屋根^{のり}の^{めき}階子^{のり}けりくる^{のり}表^{のり}面^{のり}に 晋子

三子

真

藏